



令和3年度  
**入賞作品集**

# 「わがまちのやさしさ発見」 レポート

主催／大阪市

# はじめに

大阪市では、障がいのある人もない人も「ともに暮らし、ともに生きる」ノーマライゼーションの理念に基づき、障がい者（児）や高齢者をはじめすべての人が安全かつ快適に暮らせるよう建築物や、道路、公園、公共交通機関などを整備し、必要なときに「いつでも」「どこでも」「だれでも」利用でき、困ったときにはみんなで支えあえる「ひとにやさしいまちづくり」を推進しています。

本市の建物や施設を新しく建設したり、改修する場合はもちろんのこと、既存の建築物についても段差の解消、エレベーターやスロープ、階段の手すり、障がい者対応トイレの設置、視覚障がい者誘導用ブロックの敷設などバリアフリー化を行っております。また、公共交通機関においては、とりわけ多くの人が利用する鉄道駅舎におけるエレベーター等の整備が重要であると考えております。

この「ひとにやさしいまちづくり」を推進するには、多くの市民の皆様の理解と協力が必要です。

大阪市では、次の時代を担う中学生・高校生の方々に「ひとにやさしいまちづくり」の趣旨を理解してもらうことを目的として、平成7年度から、日常生活を通じて見つけた“まちなやさしさ”をレポートにした「わがまちなやさしさ発見」レポートを毎年募集しており、今回で27回目となりました。

今回は、中学生の部78点、高校生の部60点、合計138点の作品が応募されました。障がいのある方にインタビューしたものと疑問に感じたことを質問したもの、まちに施された配慮を調査したもの、写真やイラスト等により詳しく解説したものなど、様々な作品がありました。応募された作品から、第一次、第二次の審査を経て、中学生の部6点、高校生の部7点が入賞作品として選出されました。また、「最優秀賞」「審査委員特別賞」「優秀賞」を受賞された作品を、入賞作品集としてまとめました。

令和3年12月4日（土）に開催しました表彰式の様子も、誌面にて紹介しています。

この入賞作品集を通して、一人でも多くの方々に「ひとにやさしいまちづくり」について、理解を深めていただきたいと思います。

中学生・高校生の皆様、次回もやさしさにあふれたレポートの応募を待っています。

令和3年12月

大阪市

# 令和3年度 わがまちのやさしさ発見レポート

審査委員長 鳥屋 利治



今年2021年は、日本や世界中のコロナ禍の影響により開催が1年遅れての東京2020オリンピック・パラリンピックとなりました。オリンピック・パラリンピックは開催国のまちづくりをも発展させます。特にパラリンピックは世界中から障がいのあるアスリートが集まるため、その国のバリアフリー化、ユニバーサルデザインを推進させ、結果として障がい者や高齢者だけにとどまらず、誰もが暮らしやすいまちに進化します。

東京2020オリンピック・パラリンピックでは、「IPC（国際パラリンピック委員会）アクセシビリティ・ガイド」という世界のバリアフリー整備基準を、東京大会の施設整備基準である「Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドライン」に反映させて、世界基準の大会会場の整備を進めてきました。新国立競技場の建設には、計画段階から多様な障がい者団体・高齢者・子育てグループを交えたユニバーサルデザインワークショップが取り組まれ、日本では初めての世界基準を満たした競技場となりました。車いす席は国際基準である全席数の0.5%以上である500席と多く、好きな席が選べるよう各層に水平垂直分散し、また前席の人が立ち上がったも見えるサイトラインの確保、多様なトイレを多数設置、障がい者の移動ルートも健常者と同じにするなど、当事者の声を反映させたユニバーサルデザインが重要であることを示しました。こうした大会を通じて整備されたインフラや技術、サービスといったレガシー（社会遺産）がオリンピック・パラリンピックのためだけのものとならず、2025年の大阪・関西万博や、全国各地のユニバーサルデザインのまちづくりへも引き継がれていくことが必要です。

さて、中学・高校生の皆さんに、普段自分たちが暮らしているまちの中で障がい者や高齢者、バリアフリーやユニバーサルデザインをより必要とする人たちに配慮された「わがまちのやさしさ」を見つける調査をしていただくこの企画ですが、今年度の応募総数は138作品で、それらを慎重に審議検討した結果、最終審査に残ったのは、中学生の部14作品、高校生の部15作品でした。その中から5名の審査委員によって各賞を選出しました。

総評としましては、駅や図書館など公共施設を調査されているレポートが多く見受けられました。実際に

現地調査をしっかりと行い、自分なりの考察ができており、写真なども丁寧に扱っている作品が審査委員から高い評価を得ました。今後は、障がいのある人などの生の声も聴いて、ぜひ参考にしてほしいと思います。そして、どの人にとっても配慮されたまちの中のやさしさを発見すると共に、不便な点や課題点にも目を向け、どうすれば誰もが暮らしやすいまちになるか考え、行動に移していただけてくれることを皆さんに期待しています。

作品別としましては、中学生の部では、最優秀賞に佐藤 心優さんの作品が選ばれました。阪神ドーム前駅のエレベーター内に、車いす使用者が押しやすい低い位置のボタン、手すりや鏡など発見され、行き先のボタンを押さなくても移動することに着目された点が評価されました。審査委員特別賞には中山 桃々子さんの作品が選ばれました。ユニバーサル・シティーウォークの点字ブロックや点字案内板、多言語案内表示の発見、当事者の声を反映させた設備づくりの必要性に気づかれたことが評価されました。このほかに、優秀賞として村島 優太さん、藤村 辰吾さんの作品が、佳作として許 心童さん、岩本 幸穂さん、岩本 蓉佳さん、上野 翔太さん、水野 結希さんの作品が選ばれました。

高校生の部では、最優秀賞に井内 由樹さんの作品が選ばれました。Osaka Metro 玉出駅の調査で、階段手すりの点字、拡幅改札、トイレの音声案内など発見され、車いす使用者の車両乗降時のスロープ板と介助対応に着目され、駅員や駅介助員にも聴き取りされている点が評価されました。審査委員特別賞には、千原 花音さんの作品が選ばれました。天王寺アポロビルの映画館やバスを実際に車いすに乗って調査され、バスのニーリング、バス内での車いす固定ベルトを体験されました。また、映画館では車いす席、介助者用可動式座席、多機能トイレの発見をされ、職員への聴き取りもされている点が評価されました。このほかに、優秀賞として鎌田 凜さん、比嘉 利珠さんの作品が、佳作として大矢 千尋さん、中村 楓さん、松島 蒼依さん、三浦 あかりさんの作品が選ばれました。

受賞されました皆さん、本当におめでとうございませう。



# 令和2年度 わがまちのやさしさ発見 入賞者

## 中学生の部

### 最優秀賞

佐藤 心優さん (大阪市立咲くやこの花中学校3年)  
「ひとにやさしいエレベーター」

### 審査委員特別賞

中山 桃々子さん (大阪市立咲くやこの花中学校3年)  
「住みやすい街」

### 優秀賞

村島 優太さん (大阪市立咲くやこの花中学校3年)  
「わが町の優しさ」

### 優秀賞

藤村 辰吾さん (大阪市立咲くやこの花中学校3年)  
「みんなが使いやすく」

佳作

許<sup>きよ</sup> 心童<sup>こころ</sup>さん (大阪市立咲くやこの花中学校3年)

「わが町のやさしさ」

佳作

岩本<sup>いわもと</sup> 幸穂<sup>ゆきほ</sup>さん (大阪市立咲くやこの花中学校3年)

「身の周りのやさしさ」

佳作

岩本<sup>いわもと</sup> 蓉佳<sup>ようか</sup>さん (大阪市立咲くやこの花中学校3年)

「さりげない優しさ」

佳作

上野<sup>うえの</sup> 翔大<sup>しょうた</sup>さん (大阪市立咲くやこの花中学校3年)

「新しい発見」

佳作

水野<sup>みずの</sup> 結希<sup>ゆいぎ</sup>さん (大阪市立咲くやこの花中学校3年)

「『伝える』ということ」

## 高学生の部

### 最優秀賞

井内 由樹さん（大阪市立淀商業高等学校 1年）

「沢山のやさしさにつつまれて」

### 審査委員特別賞

千原 花音さん（大阪市立淀商業高等学校 1年）

「バリアフリーの重要性」

### 優秀賞

鎌田 凜さん（大阪市立淀商業高等学校 1年）

「たくさんのやさしさでどこまでも」

### 優秀賞

比嘉 利珠さん（大阪市立淀商業高等学校 1年）

「公園におけるやさしさ発見」

佳 作

大矢 <sup>おお や</sup> 千尋 <sup>ち ひろ</sup>さん (大阪市立淀商業高等学校 1年)

「素敵な図書館」

佳 作

中村 <sup>なか むら</sup> 楓 <sup>かえで</sup>さん (大阪市立淀商業高等学校 1年)

「過ごしやすい日々」

佳 作

松島 <sup>まつ しま</sup> 蒼依 <sup>あおい</sup>さん (大阪市立淀商業高等学校 1年)

「地元の図書館で『やさしさ』発見」

佳 作

三浦 <sup>み うら</sup> あかりさん (大阪市立淀商業高等学校 1年)

「身近なバリアフリー」